

昭和25年以前に建てられた木造住宅の総称。武家・足軽屋敷・町家・近代和風・洋館等、建築様式は多様ですが、風土文化に応じた職人技が随所に見られます。金沢市内に約6000軒ありますが、年間約100軒が壊されています。

"Kanazawa Machiya" is used as an inclusive term in order to call the traditional timber-framed buildings built before 1950 in Kanazawa City, which includes samurai houses, townhouses, and modernized Japanese houses. Although their types are diverse every building has attractive traditional craftworks adapted to the local climate and culture. Around 6,000 buildings have still remained in Kanazawa City and more than 100 ones are destroyed every year.

建築家・技術者・大学教員・町家の住まい手らの集まりで、金澤町家の活用・再生・継承を目的に、必要な調査研究、普及啓発、実践活動などを、行政と連携しながら取り組んでいます。2008年より毎秋に開催している「町家巡遊」は、金澤町家を巡り、建物見学・展示・レクチャー・体験・飲食などを気軽に楽しみながら、町家の魅力を体感できるイベントです。

金澤町家研究会事務局

〒920-0854 石川県金沢市安江町4-20
TEL:076-254-0647 FAX:076-254-0657
平日 9:30-17:30 土日祝休み

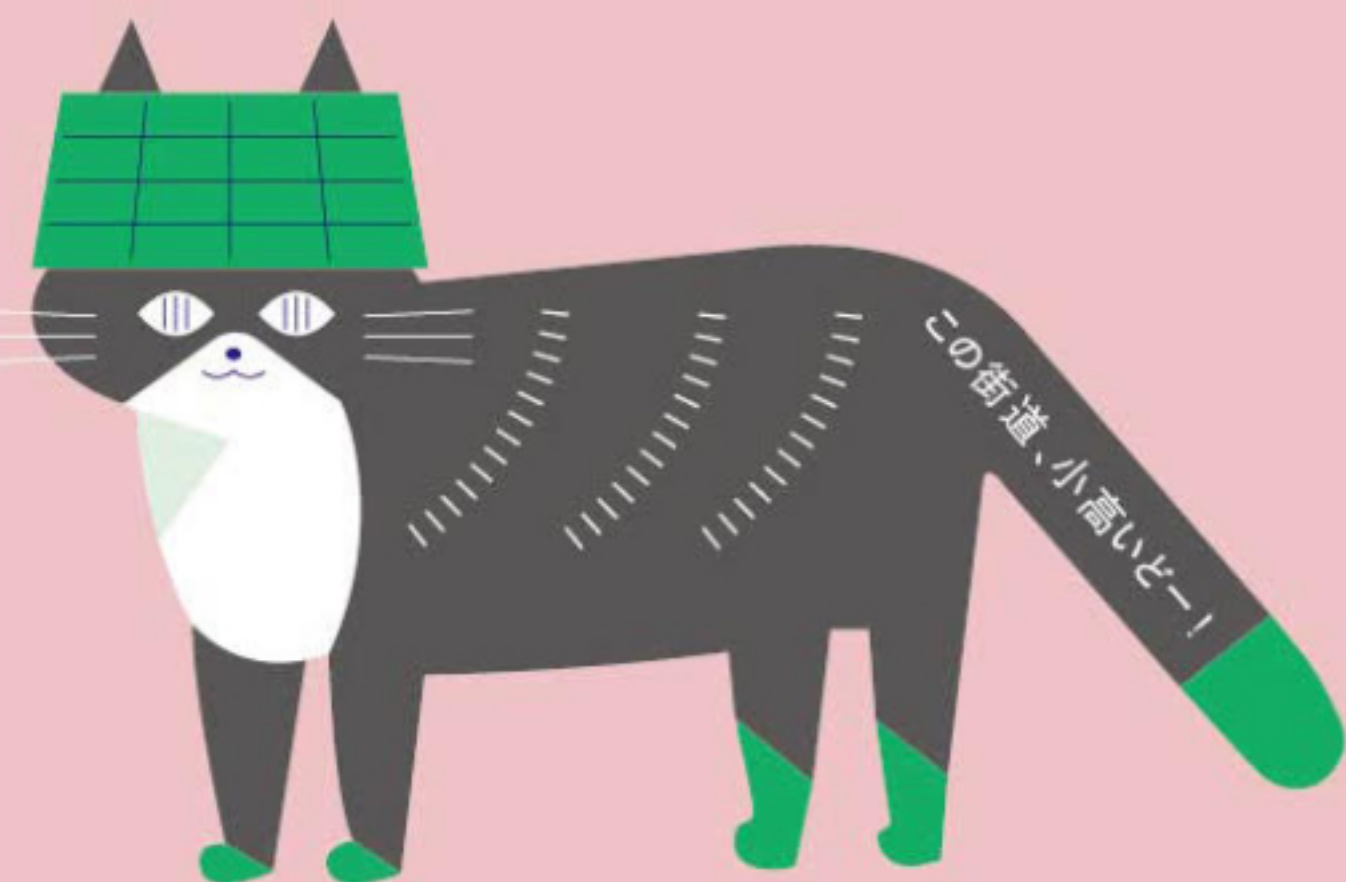
✉ kanazawa-machiya@nifty.com

 @kanazawa_mj
 @kanazawa_machiya_j
<http://kanazawa-machiya.net>

※情報は2022年9月時点のものです。変更の可能性がございますのでご注意ください。



金澤町家
巡遊2022
「坂の上街道」



会場 小立野台・旧湯涌街道

10/15(土)・16(日)

10:00-16:00

KANAZAWA MACHIYA

企画・運営：金澤町家巡遊 2022 実行委員会

金澤町家巡遊2022

「坂の上街道」

小立野台地・旧湯涌街道にて
10/15(土)・16(日) 10:00-16:00

旧街道を歩く
崖の上の高台にある旧湯涌街道は、
時折現れる崖下の瓦屋根の街並みと
坂の上から見晴らす広い空の眺望、
どこに続くのかと心躍る坂道や階段、
そして、通り抜ける風が心地良い、
魅力あふれる通りです。
たこ焼きをはふはふし、
たい焼きをかじりながら、
おもしろ
笠舞の清水まで降りてゆけば、
冷たく澄んだ湧き水に、
散歩の疲れも癒されます。
近くには石川県立図書館も建てられ、
もうすぐ金沢美術工芸大学も移転して、
少しずつ変わっていくのかもしれない。
樹々のざわめきを感じながら、
坂道や階段を上ったり下ったり、
息を切らしながら、
小立野の歴史を身近に感じてください。

ツアー申し込み先 金澤町家研究会事務局

お申し込みは10/7(金) 10:00～

TEL:076-254-0647 (平日9:30-17:30/土日祝休)

✉ kanazawa-machiya@nifty.com

🐦 @kanazawa_mj

📷 @kanazawa_machiya_j

※先着順。メールやメッセージの場合は、返信をもって受付完了となります。

坂の上街道ツアー1

10/15(土)AM

知られざる小道ツアー

旧街道と階段 → 大清水 → 喫茶コクリコ

高台の地形沿いにつくられた小道や階段を縫い歩いた後は、大清水で自然に癒され、喫茶店で小立野の楽しさを振り返りましょう。

ガイド：坂本英之 定員：約10名
参加費：1500円 (喫茶コクリコの飲み物とおやつ付き)



坂本英之 (さかもとひでゆき)

1954年生まれ。金沢美術工芸大学名誉教授。ドイツのシュトゥットガルト大学都市デザイン研究所客員研究員を経て、シュタットパウ・アトリエに勤務。1995年に帰国し、金沢美術工芸大学で教える。2003年より2020年まで同大環境デザイン専攻教授。NPO法人金澤町家研究会理事。

坂の上街道ツアー2

10/15(土)PM

古地図で歩く旧上野町ツアー

町並み・町家めぐり → 喫茶コクリコ

旧街道沿いとその周辺エリアを、いくつかの古地図を手元探索します。過去と現在とを見比べ、小立野台地につくられた町並みの成り立ちを考えながら、歩きます。

ガイド：高橋元貴＋北出健展 定員：約10名
参加費：1500円 (喫茶コクリコの飲み物とおやつ付き)



高橋元貴 (たかはしげんき)

1986年生まれ。金沢工業大学建築学部建築学科講師。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻助教を経て、2022年より現職。専門は建築史・都市史。都市および建築の歴史を、実測調査や図像史料、古文書の読解を通して研究。著書に『江戸町人地の空間史ー都市の維持と存続』(東京大学出版会、2018年)など。



北出健展 (きたでたけのり)

1972年生まれ。一級建築士事務所ジュル・アーキテクツ代表。増田実建築研究所を経て2015年、自ら改修設計を行った金澤町家に移住。金澤職人大学校で修復知識や実務をより深く学び、町家暮らしを楽しみながら、改修設計などに携わる。

坂の上街道ツアー3

10/16(日)AM

坂道と町並みツアー

小さな階段 → 大清水 → 喫茶コクリコ

段丘の豊かな地形を反映した坂道沿いの町並みや小道・階段の楽しさを発見しましょう。大清水の清流に癒され、喫茶店で小立野の楽しさを再確認しましょう。

ガイド：白石英巨 定員：約10名
参加費：1500円 (喫茶コクリコの飲み物とおやつ付き)



白石英巨 (しらいしひでお)

1983年生まれ。金沢大学人間社会研究域人間科学系講師。2008年から株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバルにて発展途上国の都市交通マスタープラン策定調査などに従事。仕事の傍らで2020年に京都大学大学院博士後期課程を修了後、2021年から現職。専門は建築・都市・交通計画。

坂の上街道ツアー4

10/16(日)PM

未来の工芸街道ツアー

金沢美大生作品倉庫 → 漆芸工房

金沢美術工芸大学の今の場所と移転先をつなぐ位置にある旧街道を歩きます。大きな彫刻作品の保管のため、美大生が共同で借りている町家を訪問した後、漆・螺鈿(らでん)・蒔絵の工芸技法で作品を制作する漆芸・美術作家、池田晃昇氏の工房を特別に見学させていただきます。

ガイド：橋本浩司 定員：約8名
参加費：1000円 (お土産付き)



橋本浩司 (はしもとこうじ)

1970年生まれ。橋本建築造園設計代表。一級建築士、歴史的建造物修復士。大学卒業後、宮本佳明建築設計事務所、フィンランド留学やイタリアでの改修設計、金沢での古民家改修を経て、2008年に独立。金沢美大の非常勤講師、金沢職人大学校で助手も務める。

旧中谷建具店

10:00-16:00 ※イベント期間中のみ公開

拠点として、旧建具店の作業場をお借りします。ツアーの集合場所にもなります。建具店時代の作業台や棚などもそのままに。職人道具の他、『建築写真文庫』もご覧いただけます。

フロム石引

- ・NYANCAFE-BOOKSの古本とコーヒー
- ・石引パブリックの本やZINE
- ・ピストリーナ・エイスキーの猫パン
- ・JO-HOUSEの肉球弁当

建築写真文庫



建具店の中谷さんが定期購読されていた『建築写真文庫』を展示します。『建築写真文庫』は、建築家であり数寄屋研究家でもある北尾春道氏が責任編集し、1954年～1970年の17年間にわたって彰国社より145巻が出版されました。その中の数十冊が並びます。全145巻中79巻を編集者の都築響一さんが再編集された書籍『Showa style 一再編・建築写真文庫(商業施設)』も2009年に同じ彰国社より出版されています。

餅つき踊り

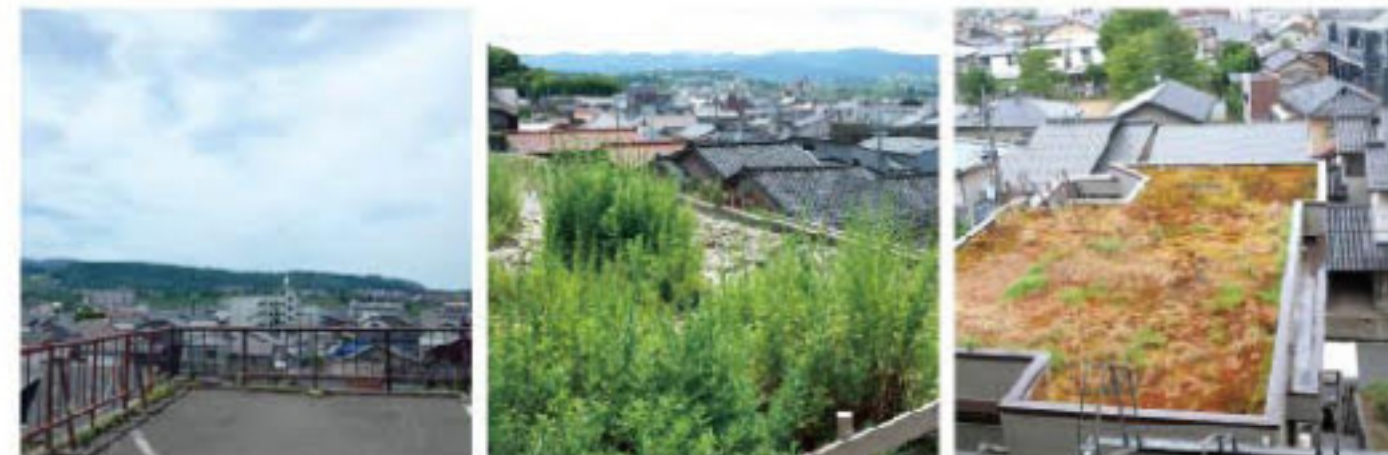
旧上野町に伝承される金沢市指定の民俗文化財です。参加者全員が上野八幡神社でお払いを受けた後、神社の前に始まり、町内を巡回。曲目は、正月の「七草」・春祭の「神楽囃子」・夏の「神鳴」・秋の「豊年」・冬の「玉兔」と四季を表し、曲の終わりは「早搦」で納めます。



おさんぽポイント

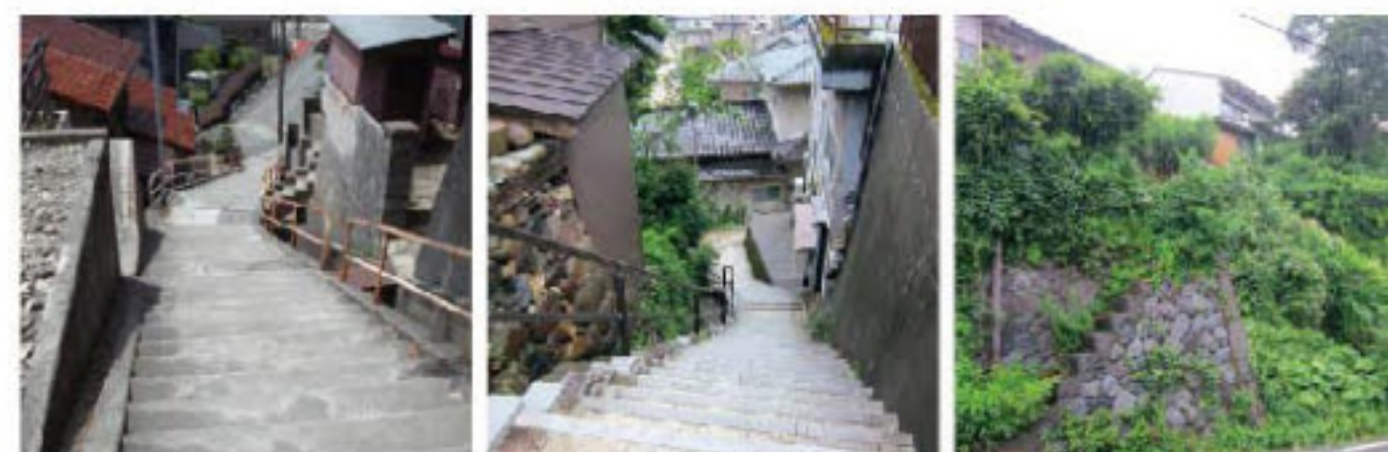
眺望点

旧湯涌街道は小立野台地の高台に位置するので、眺めの良い場所があちこちにあります。散歩しながら、建物のない抜けのある場所をみつけたら、マイ眺望点を探しましょう。くれぐれも落ちないように気をつけて！



坂と階段

旧街道から下りられる階段や坂もちらほら。そそられます。この先どこに続いているのかと思うと、ワクワクしますね。地図に載っていても、植物に覆われていたり、階段が古びていたりして、通り抜けできないところもあるのでご注意ください。



崖の使い道

地元の住人の方々は、坂の上にある旧街道の崖の斜面をうまく活用されています。草花を植えたり、家庭菜園にしたり。崖のある生活を、自由に楽しんでいます。坂下に下りた時にはぜひ注目してみてください。



COLUMN1

自由に歩いて愛して旧街道

モカ (JO-HOUSE)

兼六園、金沢城、国立工芸館、珠姫の寺・天徳院、そして移転して新しくなった石川県立図書館など大メジャーどころが近隣に立ち並ぶ金沢のメインストリートこと小立野大通りですが本当というか本来の、昔ながらだけど現在進行形でもある金沢の生活の「匂い」と「風景」が感じられるのは大通りの裏にこそあります。飲食店をしている僕は旧湯涌街道を年間300日は行き来しているんですが目的地は「スーパーちんなか(ひまわりチェーン小立野店)」一点張り。(数年前に「ひまわりチェーン」から創業当初の店名「ちんなか」に戻りました)。現在では数少なくなったこの家族経営のスーパーマーケットが無ければ僕のお店の仕込みが止まるほどの最重要スポットなんです。スーパーというよりもひとつ屋根の下の八百屋さんと魚屋さんで、味は美味しいけどちょっと規格外の野菜を格安で売ってたり、他のスーパーじゃ見かけない朝獲れの鮮魚がビッシリ並んでいる様はヨーロッパやアジアの朝市のよう。大通りじゃないのに毎朝すごい活気で学生や主婦や後期高齢者や外国人、近所の居酒屋さんやうどん屋さんや中華屋さんの大将など同業者も押し寄せて渋滞が起きるほどです。長年通ってるお客さん同士は「ちんなか」でばったり会うことで近況を報告しあったり身の上話をしたりなどサロンの役割もあるのも重要で、買い物って人と人とのコミュニケーションだったってことに立ち返らせてくれます。仕事モードの旧街道だつといふ熱くなって「ちんなか」を語ってしまいますがプライベートモードだと旧街道は最高の散歩スポットです。ここからどこへ行くのにも坂を下り、ここへ来るのにも坂を登る小立野台地といえは坂の名所。この旧街道も亀坂、鶯坂、善光寺坂、善光寺沿い坂、大瀧坂……と坂の眺めと名前の由来だけでもご飯3杯はいける良い坂が目白押しなので「この坂はどこに繋がっ

てるのか？」と小立野の坂を歩くだけでも金沢の観光名所として売り出せます。併せて国本昭二先生(1927-2005)の著作『サカロジー～金沢の坂～』を読んだら散歩にもさらに深みが出るんですよ。みんな！坂ツアーしませんか？！あと旧街道の終点？にはご褒美「辰巳用水遊歩道」が。錦町交差点から大桑へと続く長い長い遊歩道はアスファルトも信号も無い緑に囲まれていて用水の流れる音を耳にしながら歩くとき少しだけ現実逃避できて森林浴と運動にもなる金沢散歩界のユートピアですよ。是非自由に歩いて愛して堪能してください。



COLUMN2

異界への入口

リンダ (NYANCAFE-BOOKS)

軸屋治療院の脇を下る道。通称荒間坂。木や緑の生命力と廃屋の負の力が混在して、空が青ければ青い程不思議な世界に連れて行かれそうな道。異界への入口のような…。故にいつも下りきれず。晴れた日にでもまた歩いてみます。戻れるといいけど。



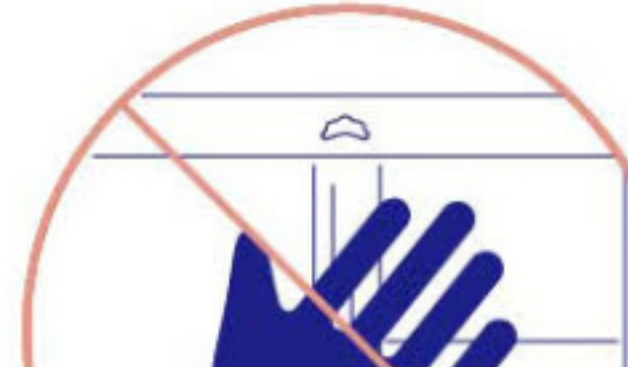
ご注意 NOTICE

会場やご近所の方へのお心づかいをお願いいたします。

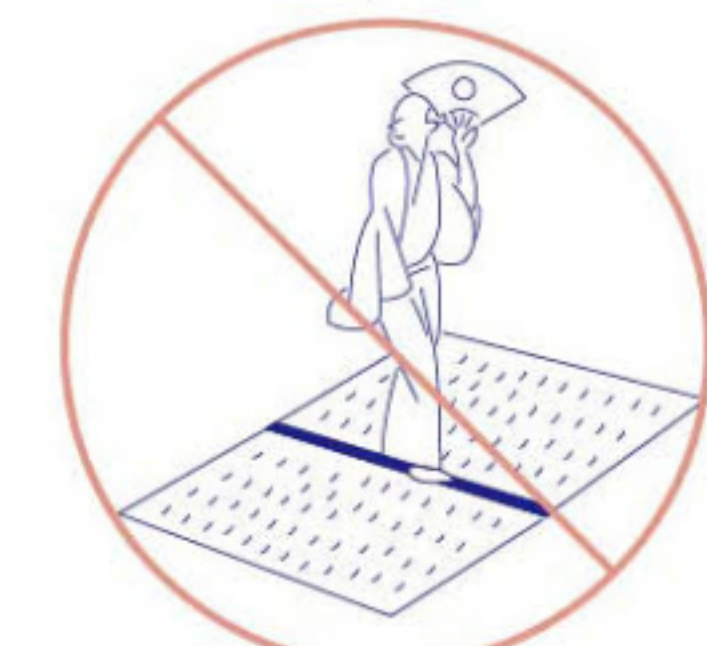
写真撮影NG！



柱・壁・建具・家具
DON'T TOUCH!



敷居・畳縁は踏まないで。



戸は勝手に開けないで。



裸足NG！雨の日はタオルや替えの靴下を。

